



(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	奥出雲町立仁多中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な 学習の時間	ふるさとの仕事を体験しよう (職場体験学習)	地域の事業所、 地域コーディネーター
ねらい	①異なる年代の人々とかかわり、様々な生き方・考え方にふれることにより、自己の生き方について考えるとともに自立への意識を高める。 ②地元の事業所での仕事体験やそこで働く人との交流を通して、地域社会への理解を深める。 ③実際の職場で仕事をしたり、働く大人の姿を見たりすることにより、望ましい勤労観・職業観の形成と、社会人・職業人として必要な能力について理解する。		
<p>1 取組の概要</p> ○実施日・・・10月1日(火)～3日(木)3日間 ○参加生徒・・・仁多中学校3年生41名 ○学習の流れ ①「『おくいずもん』の話を聞こう」というテーマで、奥出雲町にある事業所や活躍している人たちを講師として招き、働くことの意義や、地域で働くうえでの誇りや問題点などについて理解を深める。その後、学んだ内容をお世話になった講師を招いて発表会を行う。 ②「『おくいずもん』の話を聞こう」で学んだ内容を踏まえ、実際に働く事業所を決定し、生徒が各職場と事前の打ち合わせを行う。 ③地域コーディネーターを講師として招き、「マナーアップ講座」の講習を受ける。 ④実際の職場へ行き、体験学習を行う。 ⑤お礼状を書いたり、体験を通して学んだことをレポートにまとめたりし、その内容を発表する。			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『おくいずもん』と称して、地元で働く母校の先輩たちや、Iターンなどで奥出雲町にこられた人たちから奥出雲町で働くことの素晴らしさや、誇りを語ってもらうことで、自分たちが住む町の良さや、抱える問題点等を実感しやすくなるように心がけた。 ・職場体験学習を通して、働くことの意義を学ぶと同時に、事業所の方たちとコミュニケーションをとる中で、自分たちが奥出雲町の将来を担っていく人材であることを意識できるようにした。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に活動し、学んだ内容を人に伝えるにはどうやってまとめたら良いかを生徒自身で考え、工夫してレポートにして、発表ができるようにした。(まとめ方、伝え方) 			
			

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・事業所の方や、自分たちの先輩の話を実際に聞く中で、奥出雲町の素晴らしさや誇りなどを再認識できた。
- ・奥出雲町や各事業所の抱える問題点を聞き、自分たちが将来の担い手としてとても大切な存在であることを理解した。

（学力育成の視点から）

- ・ブックPCを使って、学習内容をまとめて発表することを1年生から継続的に行ってきた。その結果、分りやすくまとめる方法や聞き手を意識した発表スライドの工夫や、伝え方ができるようになってきた。また、これらの知識や技術を生徒会活動や他教科の学習にも応用できている。

4 課題や今後の展望

- ・地域コーディネーターに入ってもらい、授業を計画・実施することができたため、地域と学校とのコミュニケーションがととてもりやすかった。
- ・一方で生徒数が減少していることもあり、受けて頂く事業所数も減っている。そのため、必然的に業種の選択肢も減ることになる。事前に受け入れ先を生徒数に合わせて選定した場合、生徒の希望進路に合わせた多様な職種を選択することが難しくなっていることが課題である。



※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。